

京丹後市老人クラブ連合会だより

あじさい

第23号

2021.1発行



丹後庁舎灯台モニュメントのライトアップ

丹後庁舎の正面玄関の上に模造された経ヶ岬灯台モニュメントのライトアップが7年ぶりに年末年始の6日間実施されました。

このライトアップは、新型コロナウイルス感染拡大が一日も早く収束し、安全・安心な地域社会が迎えられ地域の活力のきっかけになればと願うとともに、市民の心に灯をともし、温もりを少しでも感じてもらえればと取り組まれたものです。
(写真提供：京丹後市丹後市民局)

主な内容

新年挨拶(会長・京丹後市長・市議会議長)	2
第41回京都府老人クラブ大会	4
活動報告	5
投稿コーナー	8

新年あいさつ



京丹後市老人クラブ連合会

会長 森 口 茂 樹

新年明けましておめでとございます。

会員の皆さまには健やかに新春をお迎えになられたこととお喜び申し上げます。

日頃から本市老連の事業推進に格別のご理解、ご協力をいただいております。

さて、昨年2月に中国の武漢で発生した新型コロナウイルスは、あつという間に全世界に広がり、経済や社会生活に大きな影響を及ぼしております。

本市老連におきましても、年度当初からコロナ感染防止のため、評議員会を中止することとなり、委員の皆さまには書面による議案決議をいただきスタートいたしましたところです。

市老連では、このコロナウイルスとの戦いが長期化する中で、市老連の健康づくり事業である市長杯グラウンドゴルフ大会（10月開催）は中山市長、金田市議会議長をお迎えし、何とか開催することができましたが、残念ながら公式ワナゲ大会（12月開催）は市内の感染状況の変化から急遽中止することとなり、日頃から練習し楽しみにしていた皆さんには大変申し訳ない思いです。また、女性委員会の活動である友愛訪問活動につきま

しても感染防止のため取りやめることになりました。この他、府老連の事業も参加人数を減らすなど規模を縮小し開催したものの、丹後ブロック事業（グラウンドゴルフ大会、健康・生きがいづくり講演会）は全て中止となりました。

私たちは、これまでに経験したことのない環境の中で早1年が過ぎようとしています。イギリスやアメリカでは開発されたワクチンの接種が開始されており、コロナの収束に少し明るい未来が見えてきたものと感じられますが、当分はウィズコロナの生活をしていくことになるのではと思います。

これまでどおり三密（密閉・密集・密接）を守りながら、事業や活動を出来る限り取り組んで行きましょう。本市老連におきましても「健康・友愛・奉仕」の活動を基本に老人クラブ活動の発展に努めて参ります。今後とも会員の皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

最後に、会員の皆さまの益々のご健勝とご多幸をご祈念申し上げます。新年のごあいさつといたします。



節から芽が出る！

市民みんなで本物の豊かさを育んでいく！



京丹後市長 中山 泰

あけましておめでとうございます。

京丹後市老人クラブ連合会の皆様には令和3年の新春を、希望とともに健やかに迎えのことと、心からお喜び申しあげます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症から市民の健康と生活を何としても守り抜くための対策に市をあげて奔走した一年でした。このため、内需拡大促進事業支援など総額約26億円以上の感染予防・事業の支援予算を各分野に思い切った投入するとともに、感染防止と安全・安心な観光の両立を真剣に目指して、全国的にも珍しいコロナ対策条例を創設し、必要な取組みを懸命に推進しています。

ひとり親家庭等の大学生・専門学校生への医療費無償化の拡大、子育てWEB懇談、「ふるさと創生職員制度」の創設、先進的なICT関連専門職大学との包括協定、途中ヶ丘陸上競技場のリニューアルなど、あらゆる分野で「人」を育て支える環境づくり、更には、寄り添い支援の充実、公民館等の市民への無料開放、生活密着な道路修繕等の抜本的な拡充など、「生活の安心」をとことんつくる取り組みも全力進行中です。民民連携やテレワークの推進戦略、ANAグループとの包括的な連携、丹後

ちりめん300年事業のほか、山陰近畿自動車道全線実現に向けた取組みなど、産業の魅力先進と日本や世界の未来貢献に向けた各般の取組みも精力的に推進しています。

そして、積極的な事業展開を将来ともしっかりと支えていくためには、財政基盤の充実を欠かすことができません。このため、昨年は、「かせぐ地方創生」を掲げ「ふるさと納税」推進のための体制づくりと取組みに本格的に着手・スタートしました。必要な局面には歳出支援を惜しまないが自主的な財源確保にも頑張る。いわゆる単なる縮小均衡ではなくメリハリのある「発展的循環への挑戦」です！

今年も引き続き、コロナ対策を万全に進めます。そして同時に、京丹後にあふれる未来への可能性を、市民総参加の大きな「和のちから」で一步一步実現していきましょう。

京丹後市老人クラブ連合会の皆様におかれましては、「健康・友愛・奉仕」の精神の下、グラウンドゴルフ大会や輪投げ大会等の高齢者の健康の保持及び増進、また親睦・交流を目的としたカラオケ大会の実施、さらに世代間交流事業、友愛訪問事業、市老連広報紙あじさいの発行など、積極的に活動を展開され、高齢者福祉の向上に大きく貢献されているところで、本市としても一層応援してまいりたいと考えております。

本年が京丹後市老人クラブ連合会の皆様にとってますます喜びの多い豊かな年でありますよう心からお祈り申し上げます。新春のごあいさつとさせていただきます。

新年のごあいさつ



京丹後市議会

議長 金田 琮 仁



新年あけましておめでとうございます。

京丹後市老人クラブ連合会の皆さまにおかれましては、令和3年の新春を健やかに迎えのこととお喜び申し上げます。

また、京丹後市老人クラブ連合会では、日頃より健康、友愛、奉仕の全国三大運動を基本とし、多くの事業に積極的に取り組んでおられ、地域の担い手としてご活躍をされておられますことに、心から敬意と感謝を申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症により緊急事態宣言が出され、各種イベントの中止や休業要請、臨時休校、外出自粛要請等、様々な対策が実施され、市民生活や地域経済に深刻な影響を及ぼした一年でありました。しかしながら、感染症収束の兆しはまだ見えず、長期化の恐れもある中、今後はウィズコロナ、アフターコロナを見据えた政策が必要となります。

さて、市議会におきましては、今期の議員は任期の1年目でありますが、市民の代表として、議員の資質を高め、政策の決定や行財政運営の監視、政策提言などの取り組みを行うことにより、市民の皆様身近で信頼される議会を目指して活動を行って参ります。

結びに、この一年の老人クラブ連合会の皆さま、市民の皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。新春のごあいさつとさせていただきます。

規模を縮小し第41回京都府老人クラブ大会を開催



知事表彰に安田俊夫さん、

府老連会長表彰に吉岡崇さんと吉岡弘陸さん

令和2年度第41回京都府老人クラブ大会が令和2年10月15日（木）、京都市内のホテルルビノ京都堀川で開催されました。今年度は、新型コロナウイルスの感染予防のため参加人数を例年の2分の1に縮小し、開催時間も短縮して行われましたが、1部の式典には来賓として西脇隆俊京都府知事、田中英夫府議会議長も出席され、老人クラブ活動に対する感謝と激励をいただきました。



左から吉岡崇さん、安田俊夫さん、吉岡弘陸さん

この日、本市老連から長年にわたり老人クラブ活動にご尽力されている峰山支部の安田俊夫さんに京都府知事表彰が、また岡野支部の吉岡崇さんと弥栄支部の吉岡弘陸さんに府老連会長表彰（育成功労者）がそれぞれ授与されました。おめでとうございます。受賞された3名の皆さんは現在も支部長としてご活躍されております。

第2部の講演会では、津軽三味線ユニット「来世楽（らせら）」さんが「歌と津軽三味線で心も体もイキイキ」と題し、軽快なバチさばきによる演奏とトークで参加者を楽しませてくれました。

活 動 報 告



京都府老連の女性リーダー (丹後ブロック) 研修会

府老連ブロック別 女性リーダー研修会に参加して

市老連女性委員長 梅田 重子

京 都府老連の女性リーダー（丹後ブロック）研修会が9月15日、宮津市内の府立青少年海洋センター（マリリンピア）で開催されました。本市老連からは11名が参加しました。

舞鶴市以北各地区から80名の参加予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により当日は56名の参加となりました。

例年でしたら分散会で活動報告や意見交換が行われていましたが、今年はコロナ感染予防を図るため、芸人さんによる「講演会」での研修会となりました。

開会にあたり府老連会長の橋本俊次（宮津市老連会長）、府老連女性委員会副委員長の小和田宏子（舞鶴市老連）さんが挨拶、続い

て丹後ブロック老連の各連合会長さんの紹介があり、その後、府老連の中川事務局長さんによる府老連の活動報告等が行われました。

研修会のメインである講演会では、大道芸人のたつきゆうさんに「大道芸で笑って健康に!!」と題してお話をしていただきました。

私の心に残った感想を少し述べさせていただきます。まずはひとつは『笑いの効用』。笑いは人から人へと伝染する。自分が明るいと周りも明るくなる。人と人との繋がりを実感出来る。自分の心の幸せにも繋がる。次に『笑う習慣をつくるコツ』。人と会話をする。趣味や好きなことをやってみる。オシャレやおめかしをしてみる。最後に『長生きの秘訣』。運動、栄養、社会参加。今日用（今日する用事がある）。今日行く（今日行く場所がある）。近所の人とでも良いから楽しい時間を過ごすこと…と締められました。笑いの大切さはこれまでからよく耳にしていますが、改めて笑っていつまでも健康でいられるよう心がけたいと思いました。また、3本のクラブを使ったジャグリングの大道芸を見せていただき有意義な講演でした。

会場を天橋立のホテルに移動し昼食を済ませた後、遊覧船にのり傘松公園に、お買いも

リーダー研修会に参加してきました



の等自由散策し無事終了いたしました。これからも健康に明るく生きいきと活動できることを祈りつつ、コロナの収束を願うものです。

峰山支部 荻野はつ子

9 月15日宮津市のマリリンピアで行われました。新型コロナウイルスで全ての事業がないうので中止だと思っておりましたが56名が参加し、京丹後市からは11名、峰山支部からは2名が出席しました。（山城、丹波ブロックは中止）

今まで3回ほど参加しましたが、こんな少ないのは始めてでした。内容はこれまでの様に堅苦しくなく、和気あいあいと楽しかったし、講演は笑いの効果で高齢者の健康づくりを促進するユーモアセラピーの話や手品などの大道芸も見せていただきました。

昼食は天橋立ホテルでご馳走をいただき、汽船で傘松公園に行き自由行動の後、午後3時頃に帰ってきました。

私は今回で3回も参加しましたが、これは老人クラブ会員の高齢化が進む中で、どうしても車に乗る者がついつい役員にさせられたことによるものですが、他の老連の皆さんと友だちにもなれ、いろいろな情報も聞けいい事もたくさんありますので、役員以外の多くの皆さんにも参加していただければと思います。



世代間交流事業 輪投げを通して 子どもたちと交流

市老連女性委員会では令和2年10月28日(水)に、峰山放課後児童クラブの子ども達と輪投げを通じての世代間交流を実施しました。

今年には新型コロナウイルスにより事業の実施が危ぶまれていましたが、活動の自粛も徐々に緩和されている状況になったこともあり、感染防止対策を十分に図りながら実施したものです。

今回はこうしたことから役員さんのみの訪問となりましたが、旧丹波小学校(峰山町)の体育館には45名の子ども達が集まってくれました。

まず梅田重子女性委員長が子ども達に公式ワナゲの投げ方や得点の付け方などのルールを説明。その後3つのグループに分かれ、一人ずつが2メートル先の競技台にむけ9個の輪を投げれば「はいった、はいった」と大きな歓声があがっていました。

世代間交流事業に参加して

網野支部 山崎 慶子

放 課後という限られた時間内での交流は児童たちにとって満足できなかったと思いますが、館内に響きわたる歓声や笑顔に包まれながら私たちは楽しい一日を過ごすことができました。

今年には新型コロナウイルスの広がりの中で実施できるかどうか心配しましたが、無事終えることができ大変良かったと思います。



ワナゲを楽しむ子どもたち

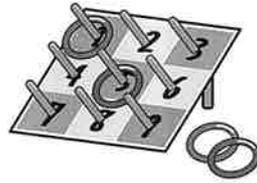
久美浜支部 小森 明美

今 年はコロナ禍で残念ながら女性部の参加人数が制限され、各町から1名づつの参加となりましたが、10月28日に峰山児童クラブ(旧丹波小学校)に出向き、可愛らしい小学生の子どもたちと親睦を図ることができました。

用具を3台準備し、低・中・高学年45名程が3班に分かれ輪投げに挑戦! ルールの2メートル離れたところから、時にはもっと近いところから...1回目より2回目は上手にインする子どもも増え、みんな大声をあげて楽しんでくれました。

私たち女性部は投げ方や、採点、輪拾いと
いった裏方さんになり交流。笑顔の素敵だっ
たことは今でも思い出せますし、みんな我が
孫のように可愛かったです。若返ったような
すがすがしい気分になり「良かった！楽し
かった！」と、ひとり車の中で微笑みなが
家路へと…。

そうそう、学童のみなさん
へのお土産は、夢を絵にして
欲しくてクレヨンやカラーマ
ジック、ノートでした。



第7回京丹後市長杯 グラウンドゴルフ大会を開催

今年はマスク着用、
ソーシャルディスタンスで

市老連主催の第7回京丹後市長杯グラウン
ドゴルフ大会を令和2年10月6日（火）に、
永留中央運動公園（久美浜町永留）で開催さ
れ、各支部から選抜された24チーム（144
人）が3ゲーム24ホールのコースで熱戦を繰
り広げました。



ねらいを定めて

新型コロナウイルス感染防止対策として、会場の受
付には体温計、アルコール消毒液を備え、参
加者はマスクを着用しての競技となりました
が、ホールインワンが73人も出るなど、大い
に盛り上がった大会となりました。また、来
賓として出席いただきました中山市長、金田
市議会議長から、老人クラブが高齢者社会の
中で果たす役割への期待と活動の重要性につ
いて、お言葉をいただきました。
なお、この大会は会場を各町持ち回りで実
施しており、久美浜支部の皆さんにはコース
の設営やテント、テーブル、イスなどの準備
に協力していただきました。
上位10名の成績は次のとおり。

第7回京丹後市長杯グラウンドゴルフ大会 成績優秀者

大会開催日 令和2年10月6日（火）

（敬称略）

順位	氏名	スコア	1打	2打	3打	支部名
1	滝田 聖治朗	40	5	9	8	丹後 A
2	谷 信子	43	2	19	3	丹後 B
3	東 勇	46	3	11	10	丹後 B
4	東 三江子	48	3	9	12	丹後 B
5	高尾 賢二	51	2	12	9	久美浜二区
6	芳賀 環	52	2	13	7	丹後 A
7	土岐 君子	52	1	15	8	網野南 A
8	清水 京子	53	3	8	9	網野北 B
9	岡田 早苗	53	2	11	9	網野南 A
10	岸田 和夫	53	2	9	13	峰山 A



投稿コーナー

離湖伝説と近世丹後の大名

峰山支部 長谷川 誠

〈出典〉

◇「京丹後市資料編 京丹後市の考古資料」

発行 京丹後市

◇「江戸時代の丹後守たち」萩原勉著(元教職、
教育行政職に従事、地方史研究家)

一 離湖古墳

離湖畔のレストラン「白い花」などの対岸
に展望する小山「離山」の山に発見された。

(1) 大きさ・形状

南北43メートル以上、東西34メートル以上、
高さ6メートル35センチ以上
形状・方形

(2) 出土品(盗堀の形状あり)

円筒形埴輪・管玉・勾玉(ガラス小玉)・

石棺の底石・石棺の敷石と思われる小石・白
色や緑色の小石(近くの海岸にあり)

第1主体物(石棺より)――

鉄刀(5)・鉄斧(2)・刀子(2)・
角鋌留(1)・短甲(1)・鉄鍬(9)

第2主体物(木棺より)――

銅鏡(直径7.5センチ)

玉類(ガラス玉、勾玉、管玉、首飾り)

*第1主体物は5世紀中葉の物で武人的性
格の人物を埋葬。第2主体物は5世紀前
葉の物で女性的性格の人物を埋葬。

二 離湖畔の龍猷寺伝説

小浜の里(京丹後市網野町小浜)、離湖の
湖畔に曹洞宗の湖秀山・龍猷寺があった。丹
後に38の末寺を持つ大伽藍だが、京極高広(丹
後の国宮津藩の殿様)はその境内に「一覽亭」
という別荘を建てて離湖の佳景を楽しんでい
た。ところが高広は眼を患ったので、家督を
三男の高勝に継がせようと幕府に願い出たが
許されず、嫡子の高国に家督を譲った。父の藩政をいつも批判していたこの高国はと
んでもない暴れ者であった。ある日、高国は「一
覽亭」に遊び、湖中に網を入れて魚を採り、そ
れを肴に酒宴を開いた。住僧が見かねて「殺生
禁断の場所、あまつさえ酒宴の肴とは……こ
ればかりはお慎みください。」と言えば、それ
を聞いた高国はひどく怒り「無礼者! たかが
坊主め……ひっ捕らえよ。」と命じた。僧はようやく本尊仏だけを抱いて木津の庄
へ逃げたという。それで高国は龍猷寺の伽藍
に火をかけてすべて焼き払ってしまった。前々から高国の行状にたまりかねていた父
の高広は、自分の長男である高国を「諸悪事
四十八ヶ状」の訴状で幕府に訴えた。高国は
初めから47番目までをうまく言い逃れた弁明
したが、最後の「親不孝」という一ヶ条につ
いては答えられなかった。そのため宮津藩は
お取りつぶしとなり、所領は幕府に没収され
てしまった。それから3年目、山城の国の淀城主の長井
尚征が丹後を拝領し、藩主として宮津領に
入った。所領の7万3千6百石より多い分は
幕府の代官所に返され(お蔵入り)、和田野村・
鳥取村など7ヶ村は生野代官所の支配を受け
ることになった。ところが、尚征の病没の後を継いだ26歳の
宮津藩主の長井尚長は、江戸芝の増上寺で四
代將軍家綱の法要奉行を勤めた時、意見の違
いでもあったのか、同じく法要奉行を勤めた
鳥羽の城主内藤忠勝に不意に切り殺されてし
まった。そして、宮津藩はまたお取りつぶし
で、所領を幕府に没収された。鳥羽城主も翌
日切腹させられ、お家はお取りつぶしになっ
た。

三 宮津藩の藩主

1580年(天正18)、細川忠興が織田信

長から丹後一国をあたえられて宮津城を築いた。関ヶ原の合戦後、忠興は豊前国の中津に転封した。代わって京極高知が丹後国12万5千石の田辺藩に入封した。高知の死後、その子高弘が宮津藩7万8千2百石を領して跡を継いだ。

ところが1669年(寛文9)、隠居していた高広が第一子の高国を幕府に訴えるというお家騒動(離湖騒動)で宮津藩は一時、幕府分領となった。

1669年(寛文9)、山城国淀より長井尚征が7万3千6百石で宮津藩に入藩した。その子の尚長は1680年(延宝8)、四代将軍(徳川家綱)の行った増上寺会の場で同じ警備の鳥羽藩主の内藤忠勝に殺され宮津藩は再び断絶、幕府領とされた。

その後宮津藩は1861年(天和5)阿部正邦(9万9千60石)、奥平昌成(9万石)、青山幸秀、本庄資昌と続き幕末を迎えた。

本庄氏は幕府と深い関係がある。徳川綱吉の生母の桂昌院の実家であり、幕府の要職にもついできたが、資昌は藩の財政を苦ししくし、宮津藩文政一揆を招いた。

*宮津城跡…宮津市内敦賀の大手川の河口に位置

四 峰山藩の藩主(京極家)

京極家は藤原北家の系統を引く。鎌倉中期に御子左為教の次男為家が祖父藤原定家の居

宅の在った一条京極宅を居宅としていたことが京極家の始祖といわれる。

その後、鎌倉幕府の重臣を勤め、室町幕府の代、足利尊氏に仕えて勢力を拡大し、近江の国の守護となった。しかし、応仁の乱で領国を追われ実権を失った。戦国時代、羽柴秀吉の信を受け勢力を回復し、大名となった。

江戸時代、丸亀藩・多度津藩・宮津藩と国替えがあり、京極高知が宮津藩の初代藩主となった。高知は次代を三人の子に分家した。

高広に宮津藩(7万8千石)。しかし高広は行状にて所領が没収された。高三に田辺藩(3万5千石)。しかし次代の高盛の代に豊岡藩に領地替えされた。高通の継いだ峰山藩は

以後12代続いて明治時代を迎える。

*峰山藩の大名…二代高供、三代高明、四代高行、五代高長、六代高久、七代高備、八代高倍、九代高鎮、十代高景、十一代高富、十二代高陳

*峰山藩の御殿…京丹後市峰山町の吉原山の麓に館が置かれた。

峰山藩が置かれる前は一色氏の領地であり、近くの権現山には山城があった。一色氏は足利一族で、室町時代からの名門である。四職家の一つ、九州探題・若狭・三河の守護など盛んであったがその後衰退した。戦国時代も宮津城主として命脈を保っていたが1582年細川忠興に滅ぼされた。

後書き

私の投稿文の第一章「離れ湖物語」は弥栄町和田野ご出身の故萩原勉様の著された「ふるさとの歴史ロマン」(第三章)の一文を投稿したものです。

萩原氏は大先輩でありましたが、この本を出版された頃はまだ京丹後市の合併前であり、若輩の私は赴任地の網野町に閉じこもり直接お会いしたこともなく、地方史の研究家や国語教育の大家などと御高名を聴くのみでした。ただこの本を後日開いた時、「僅呈・萩原」と印刷された葉があったことから、私が社会教育主事として丹後教育局に在籍していた頃の御縁(当時、弥栄町教育長)と思われる。



離山(網野町小浜の離湖)

ありがたく拝読させていただいたことがある。さて、「離れ湖物語」の章を読んだとき、この話がおとぎ話でなく近世の徳川幕府の大名配置に繋がるものであることから興味を抱き、峰山藩、宮津藩の大名に繋いで少し日本史辞典等で調べたことを第二章以下に継たしてみました。

御在所紅葉満喫の旅参加記

網野支部 梅田 豊 則

今年は新型コロナ禍にあつて、年当初計画の、事業は悉く中止又は延期となる中、三密を避けたくえで、健康づくりの行事として、11月16日に御在所紅葉満喫の親睦旅行を実施しました。

早朝浜詰団地センター前出発、天候にも恵まれ、途中休憩を取りながら、湯の山温泉グリーンホテル(昼食場所)に直行、昼食を頂き、



ロープウェイで山頂を目指す。

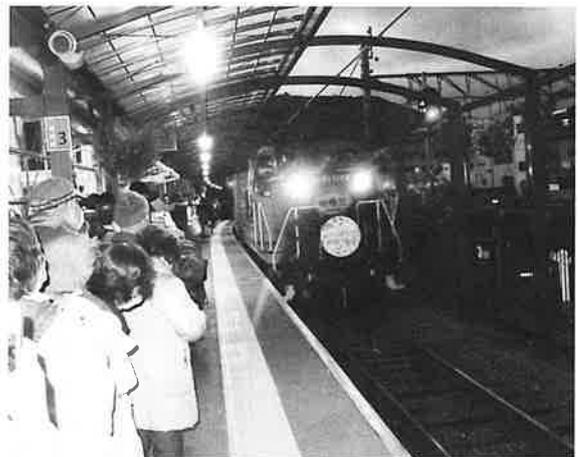
三重県の御在所岳までは、少々遠距離でしたが、標高1212メートルからの紅葉眺望は、比類なき絶景、新鮮な空気を胸いっぱい頂き、コロナ禍など何処かに吹っ飛び、山頂での散策を楽しむ。広大な高原の散策とはいつても、行動範囲はごく狭い範囲でしたが、行き先不明のメンバーが出るなどのハプニングもあり、小寒い山頂ながら少々冷や汗。記念写真もそこそこ下山。ロープウェイから眺める伊勢湾、眼下にうつる紅葉の広がり、これもまた険の奥に染み入る旅の思い出となる。

帰路は、土山SAで休憩、お買い物を楽しみ無事帰郷。楽しい健康づくり、親睦旅行となった。

トロッコ列車で紅葉狩り

網野支部 岡田 繁太郎

昨夜までの嵐が嘘のようになりと晴れた日曜日、11月29日のお昼前JA網野の駐車場を出発しました。行く先は、京都「嵐山」です。今回の研修旅行は、トロッコ列車に乗ってライトアップされた保津峡の紅葉をめめようとして計画されました。コロナに配慮して、大型バスに29名で万全の感染予防、乗車時には必ず手指の消毒をしてのバス旅行でした。



ホームにてトロッコ列車をまつ

先週末の嵐山は、テレビでご覧のように人がごった返すほどの込みようで、どうなることかと心配しましたが、一週間の違いで、大した渋滞に巻き込まれることなくほぼ予定通りに嵐山に到着しました。先週ほどではありませんでしたが、渡月橋界隈は、人があふれ、人力車が行き交い、ボート乗り場は初めて見る賑わいでした。まずは紅葉で有名な天竜寺塔頭の「宝厳院」の庭(獅子吼の庭)を見学しました。ガイドさんを先頭に、バスの駐車場から20分ほどの距離でしたが、ガイドさんの旗を見失わないように、人ごみの中を歩くのは結構大変でした。紅葉は少しピークを過ぎていましたが、手入れされた庭に紅葉のじゅうたんが広がり随所に巨岩も配置されており見事な景観でした。「獅子吼」とは、「仏



が説法する」の意味で、庭園内を散策し、鳥の声、風の音を聞くことよって人生の心理、正道を肌で感じる。これを「無言の説法」といい、心が大変癒される庭と言われています。そのあと、渡月橋をバックに集合写真を撮り、自由時間、お買い物タイムになりました。

いよいよトロッコ列車です。トロッコ嵯峨駅を目指して、嵐山から20分ほどのウォーキングです。住宅街を抜け、嵐電の踏切を超えて、おしゃれなカフェを見ながら歩きました。観光に来た若い人たちにも多く出会いました。トロッコ亀岡駅までの25分間の旅です。昔ながらのトロッコを予想していたのですが、一車両のみが屋根なしで、他は立派な車両で拍子抜けでした。ライトアップで浮かび上がる紅葉は、幻想的で美しいものでした。換気のために窓は開けっぱなしでちよっぴり寒かったですがお愛敬でした。席は指定席で満員でした。

最後は、亀岡での夕食です。京都鉄道（山陰本線の旧線、現在の嵯峨野トロッコ列車）の創業者である田中源太郎氏が生家を改築して作ったお屋敷跡の料理屋さんでいただきました。明治時代の建物で風情があり、庭もライトアップされ素晴らしいものでした。幹事さんのお陰で楽しい研修旅行でした。感謝感謝。

終わりに、夢想国師道歌
『山水には得失なし 得失は人の心にあり』

皆さんの元気な姿に
勇気をもらいました
弥栄支部 松井栄子

弥栄支部のグラウンドゴルフ大会が9月23日に、丹後王国「食のみやこ」で行われました。グラウンドゴルフに出ませんか？と誘っていただき、自信はなかったのですが参加しました。

参加して皆さんの元気な姿に勇気をいただき、楽しい一日が過ごせました。また、こんな楽しい機会が早く来ることを願っています。いつもありがとうございます。



参加者の皆さんとパチリ



編集後記

新型コロナウイルスの感染拡大が止まらず、医療体制の逼迫が深刻化していることから、首都圏4都県に続いて1月13日、京都府を含む2府5県に緊急事態宣言が再発令された。

宣言に伴う主な内容は、不要不急の外出自粛・飲食店やカラオケ店の営業時間短縮・イベントの開催制限・テレワークなどで出勤者の減少などが示されている。ちなみに1月13日の新聞によると、京都府内感染者は6185人、京丹後市では97人と発表されている。

流行を収束に向かわせるためには集団免疫が必要であり、そのためのワクチンが開発され、日本でも4月頃から接種が始まる見通しである。接種については順番があつて、最初に医療従事者、そして高齢者と進行するようである。

それまで、感染しない、させないために私たちに出来ることは3つの基本を守ることです。

- 1 マスクを着けよう。手を洗おう。距離をとろう。
- 2 寒くても換気と保温を実行しよう。
- 3 外出は体調と相談、不調があれば家にしよう。

以上ですが、食べて寝てばかりでは体調不良になります。室内でもできる自分に合った運動を心掛け実行しましょう。

1月28日

(安田 記)



編集委員長 安田 俊夫
編集委員 長濱治一郎 梅田重子
岡田繁太郎 吉岡光義
難波 澄雄

京丹後市老人クラブ連合会 クラブ数・会員数の推移 平成26年～令和2年

クラブ数	支部名	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	R1年	R2年	H26～R2 対比	
									増減数	増減率(%)
	峰山	3	3	3	3	3	3	3	0	0%
	大宮	6	6	5	5	5	5	5	△1	△16%
	網野	33	33	30	28	28	28	26	△7	△21%
	丹後	14	15	16	16	17	14	14	0	0%
	弥栄	7	1	2	2	2	2	2	△5	△71%
	久美浜	37	39	39	39	37	36	35	△2	△5%
	計	100	97	95	93	92	88	85	△15	△15%

会員数	支部名	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	R1年	R2年	H26～R2 対比	
									増減数	増減率(%)
	峰山	122	118	109	104	94	92	86	△36	△29%
	大宮	200	201	172	163	160	152	149	△51	△25%
	網野	922	877	759	706	659	625	556	△366	△39%
	丹後	434	467	464	464	484	410	388	△46	△10%
	弥栄	95	38	51	58	64	65	64	△31	△32%
	久美浜	780	767	786	727	674	647	615	△165	△21%
	計	2,553	2,468	2,341	2,222	2,135	1,991	1,858	△695	△27%

誘おう 呼びかけよう さらなる会員増強に向けて「5つの実践目標」
～これまでの成果と教訓を今後につなげましょう！～

1 「楽しい」活動が第一

実践内容

- *「趣味や娯楽」「いきいきサロン」など、無理なく気軽に楽しみ、かつ持続できる活動が第一
- *体力測定やスポーツなど「健康づくり・介護予防」に役立つ取組を
- *団塊の世代（アクティブシニア）に向けた「サークル活動」の充実を

問題点

- 魅力やメリットが感じられない
- 若い年齢層にあった活動がない



2 「情報発信」で老人クラブの「イメージアップ」を

実践内容

- *老人クラブを知ってもらうため、「入会案内チラシ」や「機関紙」を作成してPR
- *自治会・町内会でチラシやパンフを「回覧」
- *友愛・奉仕などの「地域貢献」を積極的にアピール

問題点

- 「老人」クラブへの抵抗感
- 活動内容や魅力が知られていない

3 会員みんなで「分担」し、役員の負担を軽く

実践内容

- *役員の後継者や次世代のリーダーを育てる工夫を
- *一部の役員に負担がかからないよう、業務をみんなで分担
- *「女性」や「若手」の会員など多くの会員が関わり、新しい風を!

問題点

- 役員になりたくない
- 役員の後継者がいない

4 地道な「声かけ」で粘り強く勧誘を

実践内容

- *「勧誘グッズ（チラシ、入会パンフ、機関紙）」の準備を
- *未加入者も参加できる「体験型のイベント」を実施
- *「同世代」（高年は高年を、若手は若手を）「同性」（女性は女性を）「同趣味」による勧誘が効果的

問題点

- 勧誘されたことがない
- 個人情報の壁があり誰に勧誘したらいいの？

5 自治会や社協など地域の団体と「協力関係」を

実践内容

- *行政との「定期的な懇談会」を開催
- *子どもの見守りや奉仕活動に参画する中で、顔の見える関係を
- *地域包括支援センターや社協、民生委員との定例会の開催

問題点

- 老人クラブだけでは限界がある
- 行政や関係団体と交流する機会が少ない

随時、原稿を募集しています。

「あじさい」では、会員皆様からのお声をお届けする投稿コーナーを設けています。俳句や短歌、写真、近況報告、身近な出来事・感じた事など何でも結構です。原稿は各支部長か市老連事務局へ。